



玉山藪川地区で

地域づくり計画策定に向け始動

玉山藪川地区福祉推進会（廣内久行会長）は、8月7日（木）、玉山地区公民館で地域づくり計画策定に向けたワークショップを行いました。

当日は、約35名の地区の皆さんが参加。岩手県立大学の倉原宗孝教授にコーディネーターをお願いして地域の再点検から始めました。

玉山地区と藪川地区は、約50キロも離れているほど広範囲のため、城内地区の寺院や岩洞湖周辺などは徒歩で、そのほかの全体的な様子はバスで移動。地図や資料を確認しながら、あらためて地域の魅力や資源を記録して歩きました。

その後のワークショップでは、各自のメモなどから玉山藪川地区が将来どんな地域であってほしいか、地域としてどんなことをやりたいかを5つの班に分かれ



【グループ発表の様子 ～目指すべき地域の姿とは～】

て討論。各班で考えた将来像について発表して、参加者で共有しました。

今年5月に地域協働取組実施地区に決定した玉山藪川地区は、年度内にあと2回のワークショップを重ねて、地域づくり計画を策定する予定。地域の皆さんは、来年度からこの計画に基づいた事業を始め、地域を盛り上げようと意気込んでいます。



【まち歩きで地区のお宝を発見!!】



【玉山藪川地区の将来像を意見交換】



渋民地区で「啄木講座」が開催されました

渋民地区自治会連絡協議会(佐々木由勝会長)は7月23日(水)、渋民公民館で「啄木講座」を開催しました。

この講座は同協議会が地域協働で取り組んでいる「啄木をいかした里づくり」の事業の一つとして、昨年度から継続して行われているものです。

今回は今年度の第1回目。石川啄木記念館館長で国際啄木学会理事の森義真(もりよしまさ)さんを講師に迎え「渋民尋常高等小学校に関わる人々」、「渋民の人々」をテーマに、啄木の人生における交友関係について学習しました。

森さんは、「啄木一家が暮らした齊藤家の跡取り息子であった齊藤佐蔵を、啄木はとてもかわいがっていた。男兄弟が



【講座の様子「啄木を改めて学んでみよう!!」】

いない啄木は、佐蔵を弟のようにかわいがり、渋民尋常高等小学校の代用教員時代に佐蔵と義兄弟の約束をした」などとエピソードを紹介。約20人の参加者は、興味深げに森さんの話に聞き入っていました。

今後は、啄木とゆかりがある方を講師として招くほか、啄木歌碑をめぐる屋外講座など全5回の日程で行われる予定です。



地域 地域にか 役立 から学 んでい まう すに

盛岡広域振興局は、広域8市町とともに、地域コミュニティの支援を担当する職員の資質向上や管内市町の地域コミュニティ支援を促進するため、地域コミュニティ検討会・課題研究会を行っています。今年度に行われた取り組みの一部を紹介します。

地域で一緒に活動して 経験値を増やします

6月22日(日)は、葛巻町の小田地区で行われたワークショップに参加して、参加者の視点と進行役の視点の双方を体験しました。

小田地区では、昨年度から継続して、湧き水や釣りスポット、桜や紅葉など、地域にある環境を生かしたまちづくりを展開するため、具体的にどのようなことを実践できるかを考え、将来のまちづくりのビジョンをまとめる取組を進めています。

10月には活動実践、12月は来年度に向けた事業の検討を行うワークショップを開催する予定です。

先進地を視察して アイデアを増やします

7月17日(木)は、先進地視察として青森県八戸市を訪問しました。

八戸市市民協働連携課の中里充孝さんから八戸市の協働のまちづくりについて説明を受けた後、実際に「元気な八戸づくり」市民奨励金制度を活用して地域づくりに取り組んでいる、美保野小学校地域学校連絡協議会会長の小野寺修さんからお話を伺いました。

美保野地区では、地域の特徴を生かした「里山活動」として希少生物の保全や増殖、環境整備を美保野小学校と連携して実施。活動の一部を、授業で組み込んだことにより、地域が一体となり、盛り上がりを見せ始めているそうです。